

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所おれんじ

公表日 令和7年 11月 17日

利用児童数 12名

回収数 12(100%)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	2		1		一つ一つの部屋は広くないが、運動遊びなど広々とした空間を使用する場合は、部屋を2つ広げて一つの空間になるように工夫している。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11			1		配置すべき人員基準は満たしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	1		3		バリアフリー化はされていないが、玄関、トイレ、手洗い場に台を置くなどして、段差を軽減している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	1				こどもたちの活動に合わせた空間を工夫し、過ごしやすい環境作りを行っている。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11			1		こどもの特性に応じた対応し、専門性のある支援を行うように心がけている。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11			1		5領域の視点を中心としたプログラムの立案を行っている。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	1				活動プログラムが固定化されないよう工夫しているが、これからも幅広いプログラムの立案をしていく必要がある。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3		2	7		地域の公園や児童館、図書館に行き、地域のこどもたちとも交流できるような機会を設けている。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	1	1	2		ペアレント・トレーニングや家族等が参加できる研修会は行っていない。職員の知識技術の向上を図り、情報提供や研修会への取り組みを行っていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	12					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	2	7		現在のところ、父母の会や保護者会等の開催は行っていない。今後検討していく必要がある。

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	1			子どもや家族からの相談や申し入れについて、できるだけ迅速に対応できるように心掛けている。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10		2		現在のところ、定期的に通信やホームページ等で活動や行事の更新は行っていない。今後検討し、ホームページ等を活用し、行事予定の案内を行っていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	2		1	マニュアル等の作成は行っているが、保護者に細かい説明等はできていない。契約時に説明を行った。施設入口に閲覧できるようにしていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	4		1	非常災害の発生に備え、定期的な訓練を実施していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1			子ども安全を確保するための計画を立案し安全の確保を十分に行っているが、保護者に計画の周知までは行っておらず、今後行っていく必要がある。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1			事故（怪我等を含む。）が発生した場合には、迅速に対応し、状況の発生を報告するようにしている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11			1	保護者、子どもが安心して過ごせるよう、安全面には十分気をつけながら活動を行っている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11			1	活動を工夫したり、必要に応じて、個別の配慮を行いながら、楽しみを持って通所できるように取り組んでいる。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12				いつもありがとうございます。親も救われています。保護者の皆様には、日程の調整、送迎のご協力をいただき、ありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和 7年 11月 17日				
多機能型事業所おれんじ						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		個別の対応ができるよう職員の配置はできている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	バリアフリー化はされていないが、玄関、トイレ、手洗い場に台を置くなどして段差を軽減している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		全職員で会議を行い、目標設定や振り返りを行い周知している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後検討が必要。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修を受講し、事業所内で内容をまとめて回覧、報告を行っている。	積極的な外部研修への参加が行えるように人員確保を行っていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		今後検討が必要。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員全体で話し合う場を設け、プログラムを立案している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		5領域の視点を中心としたプログラムを立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には全体で情報共有や連絡事項、役割について確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援開始終了後には成長した点、気づき、改善点などを共有し、今後の支援内容や支援方法に参考となるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			協力医療機関との連携を図っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		急遽の下校変更は学校から連絡をもらったり、送迎の調整なども事前に連絡したりしながら調整するなどやりとりをしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		必要に応じて今後アドバイスや助言を受ける機会を設けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園に遊びに来ているこどもたちと一緒に関わって遊んだりしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		積極的に参加し、地域の課題等の把握を行っていく必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		職員の知識・技術の向上を図り、ペアレント・トレーニングや情報共有を行っていけるよう検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		父母の会の活動や保護者会は行っていない。保護者同士で交流していけるような機会を設けていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○		今後、ホームページやSNSを活用し、活動内容の報告や事業所の発信をしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		事業所ができて間もないため、地域住民に十分な理解を得られるような関係作りから行っていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		マニュアル等は策定しているが、家族の周知までには至っていないため、契約等の際に周知しけるよう提示する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○		業務継続計画は策定しているが、定期的な避難や訓練は、今後実施していく予定。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		安全計画を作成しているが、今後必要な研修や訓練をおこなっていく予定。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		今後、完全計画に基づく内容を家族へ周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所おれんじ			
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 20日		～	令和7年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 13日		～	令和7年 10月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少集団であるため、こどもたちに対して、個別的な対応ができる。	小集団であるため、個別的な対応が必要なこどもに対しては、個別での対応を行うことで、こどもが落ち着いて過ごすことができる。	人員を確保しながら、更なる個別的な対応や質の高い支援を取り入れていく。
2	支援前後には職員で話し合い、終了後には報告がしやすい環境である。	職員同士が話しやすい環境作りを行いながら、支援についても報告したり、困っていること、支援で悩んでいることを伝えやすい環境作りを行っている。	職員同士のコミュニケーションを深めて、全体のモチベーションを高めていく。
3	多機能型事業所であるため、長期休暇では、児童発達支援と放課後等デイサービスが時間帯が重なり、交流できる機会が設けられる。	同年代の関わりだけでなく、年上、年下のこどもたちとの交流ができることで、優しい言葉かけやお世話など、相手の気持ちに立った行動ができるような機会が設けられる。	一緒に活動したりする機会をもっと増やしていきながら、交流を深めていけるように取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの適応行動の状況を標準化されたツールを用いて、アセスメントを行ったり、日々の行動観察を含むインフォーマルなアセスメントを使用していないことにより、しっかりとしたアセスメントができていない。	日々の行動観察、課題の抽出、共通した支援ができていない。	標準化されたツールを用いて、アセスメントを行うことで、課題の抽出をし、共通した支援ができるように検討していく必要がある。個々の知識技術を高めていく。
2	なかなかペアレント・トレーニングが行えていない。外部研修への参加が少ない。	人員不足により、外部の研修等への参加ができていない状況。	人員を確保しながら、外部の研修への参加を積極的に行い、外部研修で得た知識を職員で共有し、知識技術の向上へと努めていく。またそれぞれの子どもの特性に応じた対応等を共有し、共通した関わりや対応ができるようにしていく。
3	ホームページやSNSの活用ができていない。	ホームページやSNSへ掲載する時間が設けられていない。	ホームページやSNSを活用していきながら、活動の様子などを保護者に知ってもらい、開かれた事業所作りを行っていく。